

競技規則の要点

1. 競技場について

- ① 塁間は、16mで実施する。
- ② コーチーズサークルは、設けない。(コーチャーは立てない)

2. 用具について

- ① 試合に使用する用具(ボール・バット・バッティングティー)は主催者で用意する。(グローブは、各自で用意する。金属スパイクは禁止。)
- ② ボールは、ケンコーティーボール11インチゴム製を使用する。

3. チーム編成とプレイヤー

- ① プレイヤーは、10人とする。エキストラヒッター(打つだけの選手)は採用しない。
- ② 基本的守備位置については、競技規則で確認しておく。
- ③ メンバー表の交換は、特に行わない。
- ④ 背番号を必ずつけて、メンバーが確認できるようにする。

4. 試合について

<予選トーナメント> ※決勝トーナメント(1回戦 1試合実施)6月25日(土)

- ① 試合は3イニング(30分)とする。ただし、30分を過ぎた時点で、新しいイニングに入らない(時間制限により2イニングの場合もある)。
- ② 勝敗が明確になったとき、試合途中で攻撃を省略することもある。
- ③ 試合が終了した時点で同点の場合は、タイブレーカールール(満塁:走者8、9、10番打者、打者3人:1~3番打者)を行う。さらに同点の時は、各チーム4人(4~7番打者)で抽選を行い、勝敗を決める。
- ④ 全員攻撃制で実施する。

<決勝トーナメント> 7月9日(土)

- ① 試合は3イニング(30分)とする。ただし、30分を過ぎた時点で、新しいイニングに入らない(時間制限により2イニングの場合もある)。
- ⑤ 勝敗が明確になったとき、試合途中で攻撃を省略することもある。
- ⑥ 試合が終了した時点で同点の場合は、タイブレーカールール(満塁:走者8、9、10番打者、打者3人:1~3番打者)を行う。
- ⑦ 全員攻撃制で実施する。

- ・両チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が攻撃を完了した時点で攻守を交代する。
- ・残塁の走者は次の回に受け継ぐ。(最終回を除く。)
- ・1回・2回の最終バッターるとき、フライを打った時やフォースプレーが行われた場合、塁上のランナーはホームインできない。
- ・最終回最終バッターるとき、通常のアウトのほかボールを保持した守備者が本塁ベースを踏んだ瞬間に試合(イニング)終了とする。

- ⑤ 次の試合のチームは、前の試合が終了するまでに移動や準備を完了しておく。
- ⑥ ゲームをスピーディーに進めるため、フィールドイングとボール回しは禁止する。

5. 打者(バッター)についての主なルール

- ① 「プレイ」の宣告後、10秒以上経過したとき、ストライク。
- ② 打つときに、軸足を2歩以上動いたとき、ストライク。
- ③ ボールに触れずにバッティングティーを打ったとき、ストライク。
- ④ バントは禁止。バントやプッシュバントと球審が判断したとき、ストライク。
※ 故意に、スウィングを遅くしたときもストライク。
- ⑤ 2ストライク後、打球がファールボールとなったとき、アウト。
- ⑥ バットを放り投げた場合、球審の判断でアウトにすることもある。

6. 走者(ランナー)についての主なルール

- ① 離塁は打者が打撃した後とし、違反した場合はアウトになる。
- ② 盗塁は禁止。(タッチアップは認められる。)
- ③ スライディングは禁止、すべての塁で駆け抜けを認める。ただし、進塁の意思があると判断された場合はその限りではない。
- ④ インフィールドフライはなし。

7. ボールデッドについて規定

- ① プレイが一段落した段階(守備側の内野手がボールを保持し、攻撃側の走者が進塁の意思を見せずに止まったとき)で、ボールデッドの判断をする。
- ② ボールがファウルラインの外に出た時は基本的にはフリー。ただし、状況により審判が判断することもある。

※ その他のルールについては、「公認ティーボール規則」に準じて実施する。
ただし、ティーボールの精神からその状況に応じて特別な配慮をすることもあります。その場合は、審判の指示に従ってください。